

コミュニティ・スクール 成功の鍵は

答 熟議、未来像の共有、できることから始める



玉城 陽平 議員

問 コミュニティ・スクール（以下CS）設置のスケジュールを問う。

教育長 R6は、小・中から各1校をモデル校として、取組を開始する。各関係機関や団体等へ説明会を進め、R7・4月から運用できる体制をつくる。

問 学校を核に地域づくりの推進が重要だ。様々な方へ説明してほしいがどうか。

教育長 できる限り多くの方々へ説明していく。

問 CSの成功の鍵は何か。

教育長 それぞれの課題や考えを共有する熟議の場をつく

り、地域の子どもの未来像を共有して、役割を明確にした上で、できることから始めることだ。

問 教育委員会、地域、それぞれで推進役となる人材育成に努めてほしいがどうか。

教育長 連携しながら進めていきたい。

同性パートナーシップへの取り組みを

問 県が導入の方針を示した。当事者の生きづらさ解消に取り組むべきだがどうか。

町長 差別はあってはいけない。先進市町村を調査研究し、前向きに検討する。

不登校児童の支援を

問 不登校児童支援の考え方を問う。

教育長 学校、教育委員会、保護者とで対話し、つながりを維持した継続的な支援が重要だ。

問 支援が必要な子ども達をどう把握するのか。

教育長 連続3日休みが続けば、聞きとりや訪問を行うなど、早期発見・対応に努めている。

問 支援情報の集約的な発信、わかりやすい形の相談窓口の設置はどうか。

教育長 本町に合う形で発信の準備、調査研究を進めていく。

問 子ども達の日中の居場所づくりも検討してほしいがどうか。

教育長 学校外の居場所は重要だ。関係機関と連携し検討する。

**文化芸術政策と
保健福祉政策の連携を**

問 文化芸術活動は健康や生きがいにつながる。連携して進めてほしいがどうか。

町長 新しい視点だ。できるところから連携して検討していきたい。

